

2021年度紅梅会役員・委員

会長	(66)	茶園 美香	編集委員	(学14)	大久保 笑美	推薦委員	(短10)	◎長谷川 香
副会長	(87)	添田 英津子		(学15)	中川 萌		(学12)	三浦 桃子
書記	(学1)	田村 紀子	準備委員	(84)	◎江河 都美	ホームページ	(学15)	入澤 佳奈
	(学8)	植松 未奈		(短9)	新藤 香織		(学12)	◎濱田 ひとみ
会計	(学13)	大貫 果子		(短9)	赤木 紀子		(学1)	櫻井 真理子
	(短12)	関本 久美子		(学5)	星野 真理子		(学12)	宮本 紗代
会計監査	(学13)	山岸 遥香	研修委員	(学12)	大和田 紗代		(学17)	島田 宗太郎
	(70)	立川 臣子		(学4)	◎小柳 淳	(学17)	渡辺 穂香	
編集委員	(短9)	稲葉 英梨子		(学5)	天野 秀基			
	(学15)	◎香村 侑稀		(学13)	千々布 珠聡			
	(学3)	飯塚 彩花		(学14)	波多野 智咲			
		濱舘 陽子		(学15)	星野 志穂			

() : 卒業回生 ◎ : 委員長



第113号

紅梅会事務局よりお知らせ

- 住所・氏名等の変更は、次のいずれかの方法で必ず事務局までご一報ください。
 - ①メール・郵送・FAX
 - ②QRコードの登録変更フォーム
- 紅梅会からのお知らせは、随時ホームページにて更新しております。ぜひ、ご覧ください。
- 会費の納入にインターネットバンキングをご利用いただけるようになりました。口座番号はホームページをご確認ください。

紅梅会ホームページは
こちらから

住所変更フォームは
こちらから

事務局在室時間: 木曜日 10時~16時
(状況により在宅勤務および出勤日を変更することがあります)
長期休み: 夏休み8月、年末年始2週間程度
メールアドレス: koubaikai.1934@gmail.com
直通電話・FAX: 03-3341-8116 短2回生 船江 裕美

寄付者

次の方にご寄付をいただきました。心より感謝申し上げます。さらに充実した紅梅会活動をするために、有効に活用させていただきます。ご寄付は随時受け付けております。引き続き、一層のご支援をお願いいたします。



2022年度
佐々木ミツ様(厚女34回生)

「特選塾員推薦」受付中

2001年4月から今までに263名の方が紅梅会推薦により特選塾員となりました。推薦をご希望の方は下記の項目を明記して、紅梅会事務局に郵送・メールまたはファックスでお送り下さい。なお不明なことは紅梅会事務局にお問い合わせください。

1. 氏名・ふりがな・生年月日
2. 回生または卒業年月
3. 現住所・電話番号
4. メールアドレス
5. 学歴(高校以降)
6. 職歴およびこれまでの活動(ボランティアを含む社会的活動などを具体的に書いてください)
7. 特選塾員推薦に申請した理由および、特選塾員になった時の抱負

訃報

2022年12月31日現在

助22回生	坂本 琴(旧姓小川)	2022年10月12日	准1回生	伊藤 美智子(旧姓北城)	2020年9月27日
21回生	本橋 フミエ(旧姓大掛)	2022年5月11日	39回生	大場 良子(旧姓野口)	2021年12月18日
23回生	豊歳 リツ子(旧姓保田)	2021年10月6日	42回生	岩崎 リウ子(旧姓伊藤)	2022年1月30日
31回生	小川 房子(旧姓青木)	2021年7月6日	42回生	村山 伊栄子(旧姓松野)	2022年2月20日
33回生	荻原 ユウ子(旧姓山本)	2022年1月23日	44回生	望月 恒代(旧姓杉本)	不明

編集後記

皆様の多大なるお力添えをいただき、第113号会報を発行することができました。心より感謝しています。幅広い年代の方々が多面で活躍されていることを知り、勇気づけられました。長引くコロナ禍での生活ですが、皆様のご健康をお祈り申し上げます。

編集委員長 学15回生 香村 侑稀

会長あいさつ

66回生 茶園 美香



COVID-19が流行し始めて4年目に入りました。初期には未知のウイルスであり、生活のすべてに注意をしなければならぬという緊張の日々でした。しかし次第にウイルスの特徴が明らかになり、新型コロナワクチン接種が進み、治療薬も開発され、生活の仕方を学び、コロナを単に恐れるのではなく緊張する/しない場所を見極めながら生活する段階になってきました。とはいえ、変異株が次々と生とまれる中では、まだまだ安心ができない状況でもあります。みなさまは、どのように「ウイズ コロナ」の生活を始められているでしょうか。

一方、昨年2月に始まったウクライナとロシアの争いは、多くの方が被害にあって生活は著しく悪化し、亡くなる方も続き、歴史あるものが次々と破壊されています。映像が流れたり、新聞を読んだりするたびに心が痛みます。遠い地域で起きていることが、我々の生活にも直接大きく影響していることを実感し、私たちはまさにグローバルな世界の中で暮らしていることを強く意識するようになりました。日本においてもいつ、何が起きるかわからない不透明な時代、今という時が大切なことを感じずにはいられません。今回の争いの中にあるウクライナに対して世界中で、そして日本でもさまざまな支援が行われています。慶應義塾では、「誰も取り残されないキャンパス」にすることを目指して、環境整備をしていますが、その枠組みの中でウクライナからの留学生(大学院生)4名の支援を10月から始めています¹⁾。

さて、この度、門田美恵子様(看53回生)が、令和4年秋の叙勲において「瑞宝双光章」を受章されました。栄えあるご受章を心からお祝い申し上げます。紅梅会としても、大変うれしく存じます。

また、昨年春の書面総会の時に行った就労調査に、多くの方から回答をいただきありがとうございました。その結果、職場、職種、就業形態も多様化しており、いろいろな場で看護職が必要とされていることを感じます(詳細はP3)。今回の調査で、定年退職前後の方々がたくさん就労されていました。看護協会では、「プラチナナース」と称し²⁾、長寿100年時代における一つの生き方として、定年退職前後の看護師がさらに社会で活躍することを提唱・推進し、それを支援しています。会員の方々も、経験を活かして社会に還元されていると思いました。これはまさに、看護協会の言う「プラチナナース」として活躍されているということだと考え、今回、それを紹介しました(P8)。

私も2021年からワクチン接種に関わり、多くの会員の方の近況を聞き、看護の活動の場の広がりを実感しました。今回の会報でも活躍されている会員の方々を紹介しました。どのような活動の場があるのか、どのように工夫して看護が提供されているかを知っていただくと幸いです。

今後の会報やホームページで、さまざまな活動を共有したいと考えております。今後ともみなさまの近況をお知らせください。

2020年より書面総会にしている総会について、次年度の方法を検討してきました。コロナの流行状況が見通せない中で医療従事者が多く集まるのは、避けたほうが良いという結論に至り、2023年度も書面総会といたします。ご了承ください。

2022年は、福沢諭吉先生の著書「学問のすゝめ」が初編刊行(1872年)されて150年でした。慶應義塾では、学び続けることの価値を世の中に伝えていくことをコンセプトに、11月中旬より「ガクモンノススメ」プロジェクトを企画し、情報発信をしています³⁾。「学問のすゝめ」は、みなさまが在校中あるいはその後においても読み、大切なことを学び、生きていく中に活かされていると思います。様々な事が起こり、大切なことは何か、いかに生きるかを考えさせられる今、「学問のすゝめ」を今一度読んでみたいと思っています。

第36期の慶應義塾評議員の選挙において塾員、特選塾員の方々は投票にご参加くださったと思います。私は、今期も評議員を継続することになりましたことをご報告いたします。

同封のチラシにありますように令和4年5月に新棟がグランドオープンしました。建設の募金活動に多くのみなさまからのご協力をいただきましたこと心から感謝申し上げます。

それでは、みなさまにとって、この一年が穏やかでありますように、お健やかに過ごしてください。

- 1) 慶應義塾ホームページ(「ウクライナ避難学生学びの継続支援特別プログラム」のご案内およびご支援のお願い: 慶應義塾基金室 (keio.ac.jp))
- 2) 看護協会のホームページ(プラチナナースの活躍促進: 日本看護協会 (nurse.or.jp))
- 3) 慶應義塾ホームページ(ガクモンノススメ特設ページ: [慶應義塾] (keio.ac.jp))

第113号の 主な内容

◆ 門田美恵子さん 瑞宝双光章受章報告	2	◆ 第9回 ピニングセレモニー	7
◆ 2022年 連合三田会大会報告	2	◆ 新会員紹介	7
◆ 2022年度(第79回)紅梅会書面総会報告	3	◆ プラチナナースの活躍	8~9
◆ 2023年度 紅梅会総会について	3	◆ 同窓生の活躍	10~11
◆ 2023年 連合三田会大会について	3	◆ 紅梅会事務局よりお知らせ	12
◆ 看護医療学部だより	4	◆ 2020年度・2021年度寄付者	12
◆ 看護部だより	5	◆ 特選塾員募集のお知らせ	12
◆ 慶應義塾大学病院の看護師の活躍	6	◆ 訃報	12

門田美恵子さん 瑞宝双光章受章

慶應看護からの道

53回生 門田 美恵子

【学歴・職歴】1966年8月厚生女子学院別科コース卒業:看護婦免許/看護師の経験を経て、養護教諭として5校勤務/在職中に玉川大学卒業:小学校1種免許及び筑波大学大学院修士課程修了 学位:修士(カウンセリング):養護教諭専修免許/神奈川県厚木市立小学校 教頭2校、校長2校勤務/鎌倉女子大学教授(養護教諭の養成)/人間総合科学大学大学院博士後期課程修了 学位:博士(心身健康科学)/神奈川県厚木市教育委員会委員(厚木市特別職)

【現職】厚木市立児童館運営委員長 同市児童館運営協議会副会長/人間総合科学大非常勤講師(養護教諭養成)



厚生女子学院は豊かな学びをさせて頂き、そして、生涯の友にも恵まれました。令和4年秋の叙勲に際し、はからずも瑞宝双光章受章の栄に浴し、身の引き締まる思いしております。これも大勢の皆様方の長年にわたる温かいご指導ご支援によるものと深く感謝しております。叙勲については、全くの想定外でしたので、ただ驚きでした。各新聞には「教育功労:元公立小学校長・元養護教諭」とあります。推薦機関では養護教諭時代の活動も大きく評価されていました。養護教諭で就職したのは山間の準僻地校で、本校・分校2の計3校の大規模校。医師は遠くに内科医院が1軒で、看護師の経験が役立ちました。学校なので健康教育を重点にしました。う歯の子は永久歯をむし歯から守る工夫で県1位良い歯の学校となり、多数のぎょう虫児童も家庭の協力で数名となりました。性教育も学年に応じた内容を全クラスで実施、不登校児童は保健室でゆっくりと過ごしながら

ら勉強に追いつき人間関係作りを学びます。子どもの声はあまりにも小さく、SOSを聞き取るアンテナを高くする努力が求められています。養護教諭として5校勤務し、児童や皆の協力により5校全てが、歯科保健県最優秀校と県一位健康推進学校となる喜びを頂きました。教頭から校長となり、複雑化している学校経営を任されるようになり、それは奥の深いやりがいのある仕事でした。子どもたちがスキップしながら登校し、教職員も切磋琢磨しながら安心して職務に専念できるように、家庭や地域から信頼される学校にとチームで停年まで進めてまいりました。仕事と家事・育児・介護・学びが混在しながらも勤められたのは、家族や多くの方に支えて頂いたお陰です。慶應看護からの道は、人に恵まれ職に育てられ、彩り豊かな自由な充実した日々となりました。今もこの道をゆっくと歩いています。

2022年 慶應連合三田会大会報告

～つながろう、いま。つなげよう、未来。～完全ハイブリッド型大会開催へ！ 短2回生 船江 裕美

10月16日曜日、3年ぶりのリアル連合三田会大会が、日吉キャンパスにて開催されました。2022年の幹事学年(慶應義塾卒業後30年の学年が担当)は1992年卒であり、学部の枠を超えて多くのメンバーがオンラインでの討論を繰り返し、準備を進めてくれておりました。

医学部71回生、看護短大2回生(ともに1992年卒)が救護部会を担当し、医学部73回生、看護短大4回生(ともに1994年卒)が三田会主催イベント部会「ドクターに挑戦」を担当しました。短大2回生では、LINEなどを活用し、メンバーを集めて13名が参加しました。救護部会では、大きな事故もなく、数名の傷病者を医師と共に対応いたしました。イベント部会「ドクターに挑戦」では、多くの子どもたちが来場し、外科手術体験、心肺蘇生・AED体験、血圧測定体験、PCR検査体験などを楽しんでおりました。看護は、受付・誘導・準備・片付けなどで参加しましたが、参加した同窓生と楽しい時間を過ごしました。懐かし

い時を振り返り、現在の活躍に刺激を受けて、再会を約束しました。慶應看護で学びを共にした仲間との「つながり」をより深く感じた一日となりました。





Nurse for Nurse
Connect and Discover

看護職のための新しいキャリア支援がスタート！
会員募集中！



一般社団法人Nurse for Nurse (2021年9月設立)
メンバー：門元記子・二田水彩・川添高志(看護医療学部1期)

2022年度(第79回)紅梅会書面総会報告

新しい総会の形、書面総会にGoogle回答フォームを導入！

2022年度の総会は、新型コロナウイルス(COVID-19)の感染発生状況を踏まえ、書面総会といたしました。5月11日に3053通の書面総会資料をお送りし、582通の回答をいただきました。2022年度の審議事項については、以下の回答をいただきましたので、ご報告いたします。

1. 審議事項について

審議事項4項目(2021年度収支決算報告・会計監査報告、2022年度事業計画、2022年度事業計画、2022年度新役員)については全て承認されました。

今回の書面総会の新たな試みとして、短大以降の卒業生(1628通)には総会資料とGoogle回答フォームをハガキでお知らせ(二次元コード)いたしました。昨今、郵便代、印刷代が高騰しております。紅梅会では、経費削減のためにこのような方法を導入いたしました。厚女以前の卒業生も、Google回答フォームで返信いただくことが出来ます。(二次元コードを総会資料に載せています。その場合はハガキの投函は不要になります。)スマートフォンをご利用の方はぜひ挑戦してみてください。簡単な操作で回答ができます。

2023年度も書面総会といたします。従来通りのはがきでの回答と今年導入したWEB回答を併用する予定です。多くの会員にご参加いただきたと考えています。

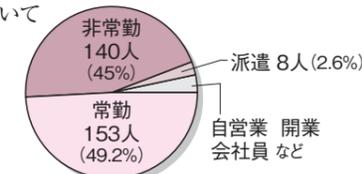
2. 就業についてのアンケート

皆様の声を今後の活動に活かしていきたいと考え、昨年引き続き、今年度は、就業状況についてアンケートを行いました。

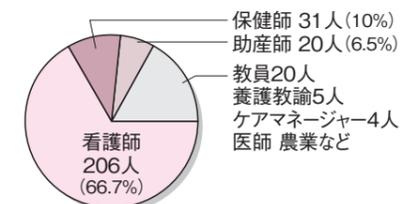
558名の方に回答いただき、皆様の近況を知る機会となりました。

(1) 現在の仕事について
なし 239人(42.9%) あり 319人(57.3%)

(2) 勤務形態について



(3) 職種について



アンケート結果より、半数以上の同窓生が様々な形で就業していました。勤務形態は、常勤、非常勤、派遣と様々でした。職種は、看護師、保健師、助産師と資格を活かしている同窓生が多かったのですが、それ以外で、これまでの知識や経験を活かし、多くの場で活躍されていることがわかりました。資格を活かして仕事されている方はもちろん、看護職以外で働いている方々も慶應看護での学びを大切に、誇りをもって仕事をされていることが伝わりました。たくさんのご回答に心より感謝いたします。

2023年度 紅梅会総会について

新型コロナウイルス(COVID-19)感染症の流行状況の予測が困難な状況にあります。会員の多くが医療職としての役割を担っていらっしゃいます。こうした状況を鑑み、総会は昨年度と同様に書面総会といたします。書面総会の資料は5月中旬頃にお送りします。(また、研修会も中止いたします。)

2023年 連合三田会大会について

開催日は、2023年10月15日(日)の予定です。新型コロナウイルス(COVID-19)の流行状況により開催方法が決まります。決まり次第ホームページなどでお知らせします。



一步先のスタンダードへ

医療法人財団 岩井医療財団

IWAI MEDICAL FOUNDATION

IWAI Value 医療を通じて患者さんの幸せに資する。

IWAI Promise 最高の医療を提供する。

IWAI Way 常に革新的である。

岩井整形外科病院
IWAI ORTHOPAEDIC HOSPITAL

稲波脊椎・関節病院
INANAMI SPINE AND JOINT HOSPITAL

岩井医療財団では看護師を募集しています。募集要綱はこちらからご確認ください ▶▶▶



看護医療学部だより

キャンパスライフと海外研修科目の再開

令和4年度は、感染予防対策の中で活動への制約はあるものの、ようやく学生がキャンパスに戻り、さまざまな活動が活性化されてきています。看護医療学部ではこの2年間も技術演習や実習はできる限り対面で行ってきましたが、ほとんどがオンラインで授業が行われている状況では、登校した学生からは緊張している様子が見て取れました。今年度初めの4月はまだ表情の硬さがありましたが、次第に伸び伸びと学生らしくキャンパスライフを楽しめるようになってきました。

義塾では、オンサイト企画として「慶應義塾SDGs会議ー2022 サマー・キャンプー」が8月31日に日吉キャンパスにて開催されました。SDGs達成に向けて何ができるのか、一貫教育校の小学生から全ての学部の大学生までが一堂に会し、慶應義塾が掲げるべき目標・ターゲットなどを考えました。看護医療学部の学生も参加し、活発な意見交換を行うことができました。

<https://www.keio.ac.jp/ja/news/2022/9/5/27-131785/>

また、学部教育の特徴の一つである海外研修については、一部のオンライン開催を除いて中断されていましたが、夏休み期間に実施している国際看護実践IIという韓国研修を行う科目では、3年ぶりの渡韓が叶いました。この科目の目的は「地球規模での保健及び看護の課題について、海外において演習を実施する国の看護系大学の学生と共に学び、社会や文化への理解を深め、人口構造の特徴と比較しながら現状を考察し、看護職の役割について議論する」ことです。5月の連休明けに主催する韓国ウルチ大学から研修再開のご連絡をいただいた時点では、塾内での海外研修も控えられている状況であり、学部としての判断に迷うところもありました。コロナウイルスの流行により韓国入国のためのVisaが必要となっていた時期で、その取得も混雑により時間を要するものでした。それでもウルチ大学側の再開にける熱意に応じるように、科目担当が実施可能性を熱心に模索し、事務方の協力も得られ実現に向けて踏み出すことができました。8月7日～8月13日の7日間、10名の学

看護医療学部長 武田 祐子

生が参加して豊かな交流を経験してきました。研修では、本校でも取り入れている高齢者体験や、コロナ禍での臨床実習を補うVRを活用した模擬病院実習を日韓の学生と一緒に体験することにより、お互いの理解や親密さを深め、様々なディスカッションも広がりのあるものとなりました。

2023年2月に予定されている、ウルチ大学を含め米英中韓の学生が来日し、慶應で5大学の学生と共に学ぶ国際看護実践Iという科目についても、オンサイト開催を再開することになりました。大学病院の見学研修も再開できるという嬉しいお知らせもあり、各国大学への案内と同時に、ウルチ大学からは夏の参加者のほとんどがこの科目への参加を希望しているという返信がありました。(2022年11月現在) 交流を重ねる事による関係性の構築は、将来の国際連携活動の礎となることが期待されます。

コロナ終息の見通しはまだ持てないものの、ウイズコロナの新たな一歩を踏み出した学部についての一端をご報告させていただきます。



2022国際看護実践II
(バーチャル病院実習経験)



2022国際看護実践II
(高齢者体験)



2022国際看護実践II (修了式)

看護部だより

2022年度も新型コロナウイルス感染症と直面する年となっておりますが、10年に渡りました新病院棟建設工事が全て完了し、5月にグランドオープンを迎えられたことは大変うれしいことです。未来につながる医療、看護の展開が期待される環境が整いましたこと、紅梅会の皆様のご支援にあらためて心より感謝を申し上げます。看護部の近況をご報告いたします。

看護部長 87回生 加藤 恵里子

1. 2022年4月看護師採用状況

新採用者: 145名 (うち男性看護師0名、経験者採用2名)
 新卒看護師: 143名 (看護医療学部卒76名、他校卒67名)
 出身校: 北海道・東北10名(7%)、関東・中部119名(83%)、
 近畿・中国・四国6名(4%)、九州・沖縄8名(6%)



2. 第7波コロナ感染症専用病棟の運用

コロナ感染症専用病棟は4対1で看護師が配置されています。そのため、感染症の拡大に備えて、各部署から選抜されたスタッフで支援チームが構成されています。コロナ感染症の第7波は、想像を絶する強力な感染力のため一気に増加し、コロナ感染症専用病棟は数日のうちに満床となり、支援チームメンバーもさらに追加されることになりました。コロナ感染症専用病棟に入院される患者さんは、生後間もない乳児や、帝王切開直後の褥婦であることもあります。せん妄状態の患者からの暴言や、精神疾患患者への対応方法に悩み、これまで自分が体験してこなかった事態や解決に困難さを感じる場面に直面することが多くあります。そんなとき、支援チームメンバーと連携できることはとても頼もしく、多種多様な強みを持つスタッフの集合体だからこそ出来るがあると実感します。そして様々な体験を通してお互いに学べる機会が多くあると確信しています。まだまだコロナ感染症が完全に収束する日は見えていません。支援チームメンバーの所属している部署のみなさんには、それぞれに業務が多忙な中で、コロナ感染症専用病棟を支え続けてくださっていることに深く感謝いたします。

看護師長 87回生 西平 万知子



3. 病院機能評価受審

当院は、9月13、14、15日の3日間、公益財団法人日本医療機能評価機構による、病院機能評価を受審致しました。前回は2017年11月に「一般病院2」を取得しておりますが、この第三者評価を受けることは、特定機能病院の要件の一つにもなっており、継続認定を目指す今回は「一般病院3」(高度の医療の提供、医療技術の開発・評価、高度の医療に関する研修を実施する病院を対象)の取得を目指しております。一昨年度より、病院機能評価受審委員会やWGを発足し、部門を超えた多職種で、課題を洗い出しながら準備を着々と進める中、本審査直前の7、8月には、コロナ禍第7波への対応で病院全体に大きな負荷がかかった状況となりました。しかし、そんな状況下でも、院内での部署間を超えた協力体制や、看護部全体で前向きに準備を進めた過程があって、無事本審査を迎えることができたと考えております。受審の結果は、これからとなりますが、これまでの準備活動や、新たな課題の出現を好機と捉え、今後も看護が医療サービス提供の中心を司る担い手であることを各々が意識し、より良い医療サービス、看護サービスの提供の為に努めて参りたい、思っております。

看護師長 85回生 梅田 光代



東京海上日動メディカルサービス株式会社〈メディカルリスクマネジメント室〉

看護職としての勤務経験を生かした、電話による医療安全やハラスメント相談のお仕事

PCを使用し相談記録・報告書の作成等、医療関連記事や研修等の簡単な編集作業等、
 看護資格を活かすデスクワークが中心、電話相談対応は複数にて対応、適宜フォローアップ、OJTあり

〈このような方は是非〉 **医療安全・ハラスメント対応に興味がある方、リーダー経験がある方歓迎**

〈お問い合わせ〉

東京海上日動メディカルサービス株式会社 人事総務課 e-mail/ tms-saiyou1@tokio-mednet.co.jp

慶應義塾赤倉山荘 www.sanshikai.jp/akakura/index.html

赤倉山荘に泊ってみませんか？

雄大な自然、豊富な湯量を誇る温泉、数多くのスポーツ施設に囲まれた慶應義塾赤倉山荘には、
 美食・温泉はもちろんのことゴルフ、スキー、テニス、トレッキングなど季節ごとの楽しみ方があります。
 合宿・研修会はもちろん、ご家族やお友達と赤倉山荘へ。塾関係者のご利用をお待ちしています。

お申し込み・お問い合わせ
 赤倉山荘 電話: 0255-87-3900 FAX: 0255-87-3905
 赤倉山荘管理事務局(三四会内) 電話: 03-3359-0227 FAX: 03-3358-0664
 e-mail: ak-ko@hyper.ocn.ne.jp e-mail: info@sanshikai.jp

慶應義塾大学病院の看護師の活躍

COVID-19禍でも止めない! がん患者、がんの親をもつ子どもへの支援:SKIP 短大4回生 内田 智栄

慶應義塾大学病院がんの親をもつ子どもサポートチーム (Supporting Kids of Parents with Cancer 通称SKiP(スキップ))は、がんの親とその子どもが、ともにレジリエンスを取り戻し、がんとともに質の高い生き方ができることを支えるために、2013年から活動しています。チームは看護師、医師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、元看護教員、放射線技師などの多職種から構成されており、がん患者の子どもに病気を伝えることの意味決定支援や、そのための医療者の教育・啓発活動、がんの親を持つ子どもへの支援プログラムの実施や親のピアサポートなどの活動をしています。

がんの親をもつ子どもを支援する主なプログラムとして、「キッズ探検隊」と「CLIMB®プログラム」を開催しています。「キッズ探検隊」は、親やきょうだい、祖父母などががんの家族をもつ子どもが、がんという病気を正しく理解し、また、同じ立場の仲間がいることを認識することで、不安の軽減につなげることを目的としています。具体的には、紙芝居でがんとその治療について学習したのちに、シールラリー形式で治療を行う部署(腫瘍センター、手術センター、放射線治療室、リハビリテーションセンター)を訪問・探検します。

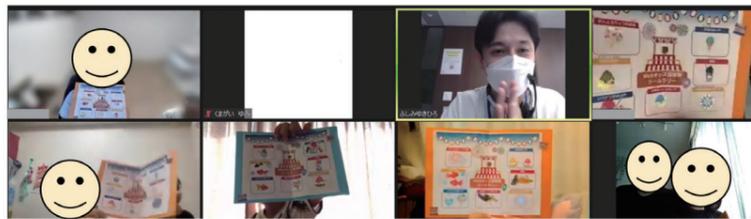
「CLIMB®プログラム」はアメリカで広く用いられ、日本でも注目されているがんの親をもつ子どものためのグループワークです。親ががんであることを伝えられている学齢期の子どもを対象として、このプログラムを行うための専門のトレーニングを受けた医療者が実施しています。親ががんであることを知ることで生じる感情に焦点を当て、毎回異なる感情を取りあげ、工作などの活動を通して感情の表出を促し、対処法を学ぶ計6回のプロ

グラムです(注1)。しかし、今般のCOVID-19感染拡大の影響により、病院内で集合して行うプログラムの開催が困難となりました。その一方、入院患者の面会は制限され、子どもが親の治療場面を知ることの機会がほとんどない状況となっています。そのため、COVID-19禍だからこそ、子どもたちに正しい知識を伝える機会を作り、不安を軽減するための支援がより重要となると考え、COVID-19禍においても子どもたちを支援できる方法はないか、チームで検討を重ねました。そして、2020年後半から、Web会議システムを活用し、それぞれの自宅からプログラムに参加してもらう形態でこれらのプログラムを実施しています。

「Webキッズ探検隊」は、子どもたちの代わりにスタッフが各部署に行き、スタッフの視界を通してWeb上で探検をします。参加した子どもたちは「コロナが終わったら実際に見に行きたい」と話し、「病院は怖いところ」と思っていた子どもがプログラム参加後「お母さんを安心して任せられると思った」と話しているとの報告もありました。

また、「Web CLIMB®プログラム」はWebでの集中力や参加のしやすさなどを考え、計4回のプログラムへ変更しています。子どもたちからは「不安な気持ちが少し減ってよかった」「色んな人と話せて良かった」などの感想があり、親である患者さんご本人からは、「子どもがあまり気持ちを出さない性格のため、子どもの気持ちを知ることができてよかった」などの声が聞かれました。

これからも私たちSKiPはその時にできる支援を考えながら、活動を継続していきます。



「Webキッズ探検隊」で探検修了時にスタンプラリーを皆で見せ合っている場面

注1: CLIMB®プログラムはThe Children's Treehouse FoundationがProf. Sue P. Heiney(サウスカロライナ大学看護学教授)と共同開発したプログラム。

慶應義塾と慶應看護の持続的発展に向けて

看護師長 学3回生 渡邊 開

紅梅会の皆様、いつも大変お世話になっております。今年度より慶應義塾大学病院の師長に着任致しました、3期生の渡邊開と申します。私は2007年に当院に就職し、一般・消化器外科病棟から集中治療センター、救急外来、泌尿器科病棟での臨床経験を経て、現在4月から消化器クラスター病棟で師長として病棟マネジメント業務を行っています。

当院、ならびに慶應義塾における看護の長い歴史の中で、男性看護師として初めて看護師長に着任し、日々その責任の重さを感じています。その反面、これまで自身を築き上げて頂いた慶應

看護と当院、また慶應義塾に対して、今後より良い組織に発展することができるよう、貢献する事への使命感に駆られています。

これまでの先輩方が築き上げてきた慶應義塾における看護の伝統を大切にしながら、多様化・複雑化する社会の中で、時代に求められている看護者としての姿勢を確立し、組織の発展に結び付けたいと考えております。紅梅会の皆様には今後ご指導いただく場面が多々あるかと思っておりますので、今後とも宜しくお願い致します。

第9回 ピニングセレモニー

コロナ禍での対面開催

看護医療学部2年生 高野 李菜

2022年7月28日、第9回ピンニングセレモニーが執り行われました。ピンニングセレモニーはかつての戴帽式であり、学生が幅広い視野をもった看護医療の先導者となるべく、自己の将来に向けて考える機会として設けられています。

今回のピンニングセレモニーを開催するにあたり、ご協力いただいた全ての方に御礼申し上げます。武田学部長をはじめ、茶園紅梅会会長、その他来賓の方々、お忙しい中足を運んでくださった看護医療学部の先生方に大変感謝しております。

新型コロナウイルスの影響で2年ぶりの対面開催となり、勝手が分からず難航する部分もありましたが、無事に執り行うことができたことを大変嬉しく思います。また、当日には沢山の方からお祝いの言葉を頂戴したり、学生の笑顔を見て大変報われた気持ちになりました。

ピンニングセレモニーを挙げるにあたり私は学生リーダーを務めましたが、それは私にとって大きな挑戦でした。初めてのリーダーの経験であり、学生リーダーとして責務を全うする過程で大変なことは沢山ありましたが、その一方で自身の欠点や特性を知ることができました。私は責任感が強く、1人で仕事を抱え込んでしまう気質があり、それがストレスになってしまったこともありました。しかし、看護師にはチームナーシングと言われているように、病棟全体で協力して患者1人1人を支えることが求められていると私は考えています。今回のピンニングセレモニーリーダーとして学んだことはチームで協働することであり、将来医療者として患者を支えるために養うべき力であると考えます。今後の病棟実習やサークル活動においてチーム全体で連携したり、リーダーとして効率良く物事が進むように尽力したりと試行錯誤しながら学んでいきたいです。短い期間でしたが、学生リーダーの経験は実りあるものとなりました。

限られた学生生活では様々なことに果敢に挑戦し、沢山の経験を積んで将来の糧にしていきたいです。

新会員紹介

東京医科歯科大学病院 学18回生 一柳 直

私が手術室を希望したのは、学生の頃の実習で手術室を見学したことがきっかけでした。そこで器械を素早く医師に渡し、手術の流れや患者さんの状態から流れを予測して動いている看護師に憧れを持ったからです。私は今年度、器械出しや外回り看護師として様々な症例の手術に入っています。毎日異なる手術に入るため、手術の流れや病態、患者さんの持つ情報などについて日々勉強しなければならないことが多いです。しかし、手術

の進行を予測して器械を渡せた時や患者さんの個別性に合わせた看護を提供できた時には達成感を感じます。また、診療科医師や麻酔科医師、臨床工学技士などの様々な職種の方と協力し、患者さんに医療を提供する場面に携わることができるのも手術室看護師の魅力の一つだと考えています。丁寧な指導して下さる先輩方の協力を得ながら、より良い看護を提供できるよう日々励んでいます。



慶應義塾大学病院 学18回生 米山 菜緒

私は今循環器内科・腎臓内科に配属され、学生とは異なり、チームの一員として責任を持って看護を提供できるように日々勉強しています。初めてのことも多く緊張する毎日ですが、同期と支え合い先輩方に助けて頂くことで乗り越えています。私の所属する病棟は高齢で慢性疾患を抱えている患者さんが多いため、患者さんが退院後も継続することができる生活指導を行う必要があります。患者さんの生活背景について情報収集し、アセスメントすることで患者さんにあった方法や内容を考え実践しています。

先輩方から多くのフィードバックを頂く中で、少しずつ1人でできることが増え、成長することができているのではないかと感じています。また、患者さんや家族から感謝の言葉をかけて頂く機会もあり、私の行動の1つ1つが患者さんの人生に影響を与えていることを実感しています。これからも根拠を理解した上で患者さんにあった看護を提供し、チームの一員としてより活躍することができるように頑張ります。



株式会社ケアーズ 白十字訪問看護ステーション WHITE CROSS

お問合せ hakujuji@muse.on.ne.jp 03-3268-1815

在宅ケアはぐくむ力で お互いを育ちあえる実践の場に

訪問看護は いのちに寄り添うケアを 生活の場にお届けします。

市ヶ谷、四ッ谷地域を中心として「白十字訪問看護ステーション」、看護小規模多機能型居宅介護「坂町ミモザの家」、相談支援の場として「暮らしの保健室」を運営しています。

新卒者、訪問看護未経験者大歓迎です。その人らしく生きる支援を一緒にしませんか?

<http://www.cares-hakujuji.com>

2020年1月に日本でCOVID-19の最初の感染者が確認されてから3年余りになります。その間も医療は休みなく活躍を続けており、看護においても多くの現場でのニーズが高まっております。

紅梅会では、2022年度書面総会にて「就業について」のアンケートを行いました。その結果、定年退職後もこれまでの看護職としての豊富な知識や経験を活かして多くの方が多方面で活躍されていることに、とても感銘を受けました。いつまでも、

【看護師・保健師・助産師】

回生・氏名	職種	勤務先	仕事内容 メッセージ
58 K.K	看護師	①市役所臨時職員 ②言語サービス ミカタ	①各がん検診の問診に従事 救護業務(年に数回) ②バイタルチェックしています。(3~4/週) 後期高齢者でも健康であれば仕事の場所はありますので、会員の皆様ご自愛ください。
63 武田美代子	看護師	社会医療法人 博愛会菅間記念病院	役職(総括管理責任者) 今までの経験、知識を活かし、病院の看護部はもとより、病院全体の指導、教育、マネジメント、職員のメンタルサポート、よろず相談すべてを受け入れ、週4の勤務をしております。慶応の卒業生の一人として、誇りを持ち、充実した役割を果たしています。
63 八田久代	看護師	白樺訪問看護 ステーション	術後の患者様宅でのガーゼ交換(1回/W)・点滴・褥瘡の処置・グループホームの訪問看護(薬の整理・採血など) 定年後もナースの仕事をやれることに感謝しております。仕事以外にも地域で相談されることに感謝です。
65 桑田澄子	看護師	ふるさとおふくろ苑 (デイサービス)	61才で定年退職。義母の介護のかたわら、義母が利用しているデイからの要請があり、勤めだして今に至っています。 看護、介護をしていく中で利用者さんとコミュニケーションをとりながら、その人にあった必要な支援をさせて頂けることに感謝しながら毎日を送っています。
65 T.T	看護師	クリニック	夫が義父から継承したクリニックのお手伝いのつもりが来年で40年になります。笑顔でハイタッチで帰られるお子さん達を見るたびに仕事を続けてこられた環境に感謝しております。日々新たな発見があり、我が身の非学を恥じたり、若いスタッフさんに教えられたりの毎日です。時に継続は力なりです。小さな山をいくつも乗り越え逆境にあらがわずコツコツと歩むの心境です。支え合いの精神が必要かと思えます。半世紀を越えた厚生女子学院時代が懐かしいです。
66 T.K	看護師	藤沢市医師会	週1程度コロナワクチン接種のお手伝いをしています。 <プラチナナース>名前が良すぎ。ちょこっとのお手伝いだけです。
66 J.T	看護師	いしかわ皮膚科・ アレルギー科	定年後は皮膚科クリニックで3回/W半日働いておりましたが、現在は年齢も高くなり依頼された日(例えば授業参観、病院受診で欠員になる日)に応援出勤しています。4回/M位です。採血や皮膚科軟膏処置など一般的な仕事です。患者様とも接していますので多くを学びます。無理のない程度で楽しく仕事をさせて頂いております。働いていることで元気にさせて頂いているように思います。
67 K.I	看護師	久喜市会計年度任用 職員	保健事業推薦員として保健センターのがん検診や乳幼児健診の仕事をしている。また、介護認定審査会委員として13回/年会議に出席。検診などは自分の都合で回数(日程)を選べる。資格があることで続けられることに感謝です。
68 Y.Y	看護師	常盤こころ保育園	保育園園児の健康管理、育児相談等々。20数年保育園で仕事をしています。施設に1人の職種です。9時から16時まで勤務しています。子どもから元気をもらって働き続けています。(しかし、そろそろ退職しようかなと思っています…)
70 Y.K	保健師	出水市保健センター	6か月児相談、1才半健診、2才歯科、3才児健診、5才児歯科健診で半日を9回。会計年度任用職員の身分です。問診指導を担当し、職員の保健師とカンファレンスまで。娘に(3人の母親)おばあちゃんのような相談者もいた方がいいと応援され、お母さんや赤ちゃんとの出逢いが楽しくてやっています。昭和47~50年寮での仲間が今でも宝物です。
60 S.K	助産師	M市子ども子育て 支援課	3、4か月・1歳6か月・3歳児の健診業務と相談。

いつからでも、看護の力を発揮する場所があること、看護職の活躍の場が広がっていることを改めて教えていただきました。

現在子育てなどにより、休職している方も多くおられます。今後の復職の励みや定年後のキャリアを考えると参考になると考えて、「プラチナナースの活躍」としてご紹介させていただきます。(書面の都合上、70回生(1975年卒)以前の卒業生を掲載いたしました)

【教育機関・その他の職種】

回生・氏名	職種	勤務先	仕事内容 メッセージ
39 大橋優美子	看護大学 学部長	松蔭大学 看護学部	2023年4月より修士大学院のスタート予定です。神奈川県厚木市の大学で2015年から慶応OG K.K教授、A.M教授と、慶応病院元部長H.Sさんと元気に看護の学士教育に励んでいます。紅梅会の後輩たちもぜひ教員になって下さい。
60 菅原スミ	看護師、 審査委員	昭和大学 保健医療学部/ 再生医療安全未来 委員会	①昭和大学保健医療学部大学院で、客員教授として「臨床理論」の講義を担当しております。ただし、受講生がいればです。 ②再生医療安全未来委員会で医療がわかる「生命倫理に関する識見を有する者」の立場で審査委員(委員長)をしています。(1~2/月)慶応大学医学部医科学専攻科で生命倫理を学びましたので。
60 花岡眞佐子	大学院の 非常勤講師	北海道医療大学 看護福祉学研究所	大学院生(現職の看護師)を対象に夜間授業(遠隔Zoom)を週1回程度担当しています。内容はF.ナイチンゲール看護論、看護教育の歴史、授業方法など。学生は新人看護師の研修制度に興味を持つ方、看護学教育に転向したい方など。働きながら学ぶ学生と楽しくディスカッションしています。
60 M.G	講師	私立看護学校	時間講師
68 筒井真優美	看護師 教員	日本赤十字看護大学 名誉教授	いくつかの大学院で看護理論、看護科学、理論開発などの授業を非常勤で教えています。 実習指導者講習会、看護部研修会などで「実践の質向上のために看護理論をいかす」の内容で2日間クールで臨床の方々と話合っています。看護はやはり実践です!!
68 中村くに子	看護師 教員	東京都看護協会	「認定看護管理者教育機関」で看護管理者の教育を担当。主に看護主任、師長、看護部長の方に体系的な教育内容を企画し運営している。 定年後初めて慶応以外の組織で働くことで慶応義塾での看護教育の質の高さを実感しています。ここでの教育はどこで働いても「看護の本質」を問いかげられる内容であり、社会が変化しても普遍的であることを感じて、セカンドキャリアを歩んでいます。慶応義塾での学びを誇りにし社会貢献しています。
68 窪田由紀子	会社役員 産業看護師	テクノパワー(株)	卒業後、大学病院で整形外科小児科勤務。我が子の子育て経験を生かして、H12~H29まで有償ボランティアで自宅で育児支援。一家族5才差兄弟の0才~12才までの育児を体験。下の男児が中学生になった時、親御さんの希望で、時々のお訪やメール等で近況報告や子育て相談など交流を継続し、おかげで社会との繋がりができいい刺激を受けています。そして今年からは困った時には協力を依頼して助けてもらっています。普通は経験することのない貴重な体験を長年続けられるのも学院での3年間の学びがあったからだ感謝しています。そして今も紅梅会からの情報を得る機会に恵まれて嬉しく感じています。
58 大竹佐久子	農業		現在は看護職にはついていません。コミュニティ協議会会長として地域貢献しておりますが、地域の方たちから、様々な病気や家庭での看護や介護についての相談を受け重宝されています。こうい形でも役に立つことを実感しております。
59 富田益子	調理員 (調理スタッフ)	(有)ケアサービス たんぽぽ	調理(昼食)デイサービスの方にお出しするものを作っております。週2~3回です。8時~14時の勤務です。6月までは他の介護施設で看護の仕事についていたましたが、76才になり退職しました。

同窓生の活躍

目も手も使えない看護があります ～コールセンター コロナ119～

短2回生 林 留美

ダイヤモンドプリンセス号から始まった、コロナ日本上陸…当初、町のクリニックに勤務していた私は、コロナ感染は対岸の火事のように見ていました。しかしコロナ旋風は、のんびりしたこの海街もあつという間に飲み込みました。緊急事態宣言下、通行人もまばらな異様な街中を黙々と出勤する日々。帰宅してもマスクをしたまま料理、家族と別時間の食事。医療従事者が感染源のように扱われていた頃です。この圧力に負けて10年勤務したクリニックを退職し、現場から離れて1年。何か役に立てないかと悩んでいた時「コロナ119」の求人を見つけました。直接の看護は出来なくても、これまでの経験を活かせると思いました。

今まで対応した療養者は、生後6ヶ月から95歳まで。症状も重症から軽症まで様々です。既往歴・常用薬・キャラクターも含めてアセスメントをして、アドバイスをしたり、必要に応じて救急要請

指導や医師連携をしたりします。詳細の情報収集が必須でありながら、体調不良の療養者を鑑み、短時間聴取が求められます。接する中「看護師さんとお話して安心しました」と泣き出す乳幼児の母親もいます。常に「医師は病気を診る、看護師は病人を見る」を心に努めてきました。

「『看』という字は『手で見える(目)』と書きます」と授業で教わった記憶がありますが、コールセンターでは目も手も使えません。武器は耳だけです。療養者の声を通して、訴え以上のものを読み取り、自分の持つ知識をフル稼働させ、訴えに最大限応えられるよう、更に頑張っていきたいと思っています。



コロナ疫学調査に携わって

85回生 フォクト 純代

今年の4月から、新宿区保健所で積極的疫学調査の仕事をしています。疫学調査の目的は、陽性者の行動歴を調査し、感染源の探索、濃厚接触者を特定し、感染者を早期に発見し、感染拡大防止を図るものです。方法は、電話で、本人か家族に聞き取り調査を行います。陽性者の発症からの経過、現在の症状、既往歴、喫煙歴、介護サービスの利用状況、家族構成などの生活環境、ワクチン接種の有無などから、今後予想されることを総合的にアセスメントし、入院調整、高齢者医療支援型施設、酸素ステーションへの入所調整、ホテル療養、自宅療養等、療養場所を選択しています。

自宅療養の場合は、訪問医療、看護、介護が必要か、今後の健康観察をどうするのか、リーダーに相談し、関係部署につなげます。電話だけの仕事と思って、始めてみると、簡単な仕事では

ありませんでした。まず、コミュニケーションの手段は、声と言葉だけで、表情やジェスチャーを使うわけにはいきません。最初の一言で、相手の信頼を得る必要があります。熱型や呼吸状態の情報収集、多岐に渡る既往歴から、重症化リスクはどうか、アセスメントしていく必要があり、幅広い知識が必要でした。中には、老々介護の二人や認知症の一人暮らしの方がコロナになってしまったケースもあり、どの社会資源を使って療養していただくのか、悩むケースもありました。

今後、第8波が来るのか。今年の冬は、インフルエンザと同時流行するのか、予断を許しません。今後起こりうる状況を想定しながら、一つ一つの調査をしっかりと行っていきたいと思っています。



家に帰る選択肢、受け皿として

Wyl株式会社/ウィル訪問看護ステーション代表取締役 学6回生 岩本 大希

私は2016年に独立して訪問看護ステーションを運営し続けている。その理念は「全ての人々が家に帰る選択肢を」だ。

「全ての人」には、「全ての疾患」「全ての発達段階」「患者を支える人」「地域」の4つの意味が込められている。子供たちや精神障害を持つ人など、在宅医療の受け皿が少なくなりがちの人々にも病名での区別なく、ベビーから看取りまで人生のどの発達段階でも受け入れ、ご本人の周りにいる人やすべての関係者とかかわり、多くの地域に選択肢として看護ケアを届けたい、という想いを込めている。「選択肢」という言葉を重視しているのだが、我々訪問看護師はともすると病院より家が幸せである、と思いがちだ。それは僕自身はそう思っている、相手も同じ価値観とは限らない。家は寂しくて施設がよいと思う人や、ギリギリまで家にいたいけど最期は病院で、という方もいる。その都度の場面で迷ったり考えたりして自身の価値観と合わせて選択することが健全なのだと思う。だから病院と在宅の優劣ではない。でも、どこかの誰かが「家に帰りたい」と願ったとき、受け入れてくれ

る場所がなければ家に帰る選択肢は存在せず、提示もされないのは悲しいことかもしれない。だから「看護師がサポートするので、家にも帰れますよ」とどこでも言える様になりたくて始めた。そしてそれを広げるには20代、30代で訪問看護をやりたいと思う人がすぐに飛び込める環境が必要である。それを目指した結果、学習や成長を支援できる基盤ができ、認定看護師や専門看護師、PhDを持つナースたちもおそらく全国で最も多く集まり、東北から沖縄まで全国に17カ所の拠点を持つまでになった。多くの看護師たちは20代中盤から30代後半で、いろんな経験をしながら、毎日のベッドサイドケアを楽しみながら過ごしている。でもまだまだ「選択肢」となりうるには足りていない。これからも、まだ出会ってない多くの仲間とも一緒に成長していきたいと考えている。事業所はどこでも見学を受け入れているので、これを読んだあなたもよければ一度見に来てくれると幸いです。



同窓生の活躍

子どもの健康最前線

86回生 家坂 玉緒

厚生女子学院を卒業して養護教諭特別別科に進み、埼玉の高等学校、その後故郷の山形に戻り中学校、小学校、特別支援学校を経て、現在は児童数600名の小学校に勤務しています。

保健室には毎日たくさんの子どもが来室します。「おなか痛い」という子には「おなか温めてみる?」と湯たんぽを渡し、「ぶつけた!」(子どもは実にあちこちぶつけます)という子には保冷剤を「〇時間目が終わったらまた来てください」と渡し、そうしているとパニックを起こした子のクールダウンの場所になったり、不登校の子の止まり木になったり、おもしろのパンツの世話に至るまで、養護教諭は子どもの心と体に関わることは(ではなくても?)なんでも任せられます。

そしてコロナ禍では、「朝の健康観察」「マスクの着用」「石けんでの手洗い」「換気」の基本的な感染予防対策を徹底するた

めに、管理職と相談しながら教師集団へ働きかけたり、換気ができているか、手洗い場の石けんや昇降口の手の消毒液が足りているかなど、校内巡視をしながら環境整備をしたりすることが仕事の中心になっています。

私にとってはやりがいがありすぎる毎日ですが、バイタルサインのチェック、問診、視診、触診、薬を使わない養護教諭の手当では、看護の基本であり、慶應で看護と医学の基礎を学んだことは、私が養護教諭を続けていく大きな支えになっていると思います。



助産院での日々

学1回生 熊谷 知子

茅ヶ崎市にある齋藤助産院で働き始めて14年になりました。最初の5年は住み込み生活で、院長の齋藤さんのご飯を毎日頂き、診察室が私の寝床でした。のんびりした環境の中、お産の連絡があればご飯中でも夜中でもすぐに出動!24時間365日お産という責任の重い仕事を担う院長はすごいと日々思っていました。それから結婚、4人の子どもを出産。私のお産は、齋藤さんでさえ「4人でもういいよね…」と言うほど難産系。思うようにはいかない、それでも納得のいく出産ができたと思っています。

助産所の分娩件数は、国内では0.5%とのこと。助産師が開業しており医師がいないため正常な経過の方を対象とし、「助産業務ガイドライン」に沿って業務しています。それでも正常から逸脱する可能性は常にあり、妊婦さんには嘱託医療機関でも健診を受けて頂き、異常がある場合はスムーズに転院・搬送が

できる体制がとられていません。私自身、4人中2人は病院で出産、促進剤のお世話にもなりました。嘱託医療機関の医師やスタッフの方々の温かい理解とバックアップには、本当にいつも感謝しています。

自宅に近い環境・人に囲まれたお産。リラックスはお産のスムーズな進行にもつながります。また「産ませてもらう」のではなく「自分で産む」ために、妊娠中からの生活や体づくりも大事にしています。今や何でもワンクリックで手に入る時代ですが、こんな選択肢が細々とでも在り続ける意味はあると思っています。



WHOで各国の看護の仕組みづくりを支援

WHO西太平洋地域事務局 保健システム・サービス部 Nursing Officer 学1回生 安西 恵梨子

私は病棟勤務、修士号取得を経て、2012年に日本看護協会に入職し、看護業務・教育制度担当専門職として看護チーム及び多職種チームにおけるタスク・シフト/シェア、特定行為研修制度の活用推進、ナース・プラクティショナー(仮称)制度構築等を担当してきました。この経験を踏まえ、2022年6月からはWHO西太平洋地域事務局に外向しています。

WHOはスイスにある本部の他、世界6か所に地域事務局を、150以上の国に国事務所を設置しています。日本が属する西太平洋地域には37の国と地域が含まれ、世界の4分の1以上を占める約19億人が暮らしています。国の大きさや経済状況、文化的な背景は多様ですが、平均寿命が延び、高齢化が進み、生活習慣病対策や災害への備えが喫緊の課題である等の共通点があり、医療専門職に占める看護職の割合が最も多い(約7割)地域です。私の役割は、この地域の看護職がさらに活躍できるよう、エビデンスに基づき、加盟国の看護・助産に関する制度の構築や見直しを支援することです。具体的には、看護師法の

改正や、保健医療計画や看護に関する国家戦略の作成等を支援したり、各国の看護職が集まる会議等で看護・助産に関するWHOの方針や戦略等を説明しています。より良い看護が提供できる仕組みや働きやすい環境を整えたいという情熱に溢れた各国の看護行政のトップの方々に刺激を受けながら、この地域の看護にどう貢献できるか模索しています。



前列中央が筆者